東京女子大学言語文化研究（*Studies in Language and Culture*）22（2013）pp.1-16

畳語の研究

大　里　彩　乃

はじめに

日本語には「さらさら」や「きらきら」などのオノマトペ以外にも、「人々（が集まる）」、「時々（運転する）」、「山々」など語や語の一部を繰り返す表現がある。これらは畳語と言われ、日本語以外にも様々な言語に見られる。畳語は多くの他言語にも存在し、多様な形や役割を持つ。

本論文では、「畳語とはどのようなものなのか」を探ることを目的とし、形態と意味の２つの点から分析する。本論文で対象とした言語は文法書や論文で資料が得られた、日本語・英語・フランス語・インドネシア語・ツツバ語の５言語である。５つの言語の畳語を照らしあわせ、畳語の形態と意味の点から畳語の特徴を考察した。

1. 畳語の概要

1.1　定義

畳語（reduplicated word）とは、語の要素を２回繰り返し（重複 reduplication）てできた語のことであり、複合語の一種である。また、意味論の見地から、音と意味が密接に結びついているという意味の類像性（iconicity）があるとされており、その用法の例としては、名詞の複数化、形容詞の強意、弱意、動詞の反復、累進性などがある。その一方で、この類像性があまり見られないケースもある。それは名詞から動詞、動詞から名詞への派生、自動詞化、主部の呼応、所有のマーカーとして使用する意味的、形態的な機能を持つ例である（Inkelas、2006）。

1.2　オノマトペ

オノマトペにも、畳語の定義に沿った、語基を重ねたものが多く存在する。田守（2002, pp. 5-6）によると、オノマトペとは、音声を描写する擬声語・擬音語と様態を描写する擬態語の総称である。日本語のオノマトペが描写する音や動作には、「ぽっきり（折れる）」や「ばたん（と倒れる）」のように一度限りの動作や様子を表すものと、「わんわん

（鳴く）」、「にこにこ（笑う）」などのように、連続ないし繰り返しの動作や様子を表すものがある。角岡（2007）は、日本語のオノマトペの見出し語1652の中の42.13パーセントに相当する696語が反復型で、要素の重複によるものであると示している。この数字は日本語のオノマトペにおける語形別の使用頻度としては一番高い。多くのオノマトペが要素を重複させる形をとる理由は、描写する音や動作が、連続した繰り返しの音や動作を表すために用いられているからである（田守、2002, pp. 78-79）。

1.3　畳語が使用される地域

WALS（the World Atlas of Language Structures）によると、368の言語の中で完全畳語と部分畳語の両方の特徴を持つ言語が277、完全畳語しか存在しない言語が35、生産的な畳語を一切持たないとされている言語が56あげられている。また、その情報が記された世界地図では、畳語を使用する言語はアメリカ先住民語、オーストロネシア言語、アフリカの言語に多く分布していることが分かる。その一方で、インド・ヨーロッパ語族に属するフランス語、スペイン語、イタリア語や、ゲルマン語派に属する英語など西ヨーロッパで話されている言語では、畳語の使用があまり見られない。しかし、これらの西ヨーロッパで話されている言語に畳語が全く存在しないわけではなく、俗語（スラング）や幼児語・親密語として使用されている場合が多くみられる。

1.4　畳語の形態

畳語には、完全畳語（full reduplication、complete reduplication）と部分畳語（partial reduplication）の２種類の形態がある。ここでは、畳語の研究が多くなされているインドネシア語を参考にして畳語の形態について考える。

・完全畳語

完全畳語とは、畳語の構成要素が何であっても、その全部が単純に繰り返されるものである（松岡、1990）。

例　murid-murid「学生たち」　← murid「学生」

　　pendengar-pendengar「聴収者たち」　← pendengar「聴収者」

・部分畳語

部分畳語とは、構成要素の一部が重複するもので、語基の一部の音節が重複するものと、接辞の一部を省いて語幹のみが重複するものがある（松岡、1990）。なお、インドネシア語においては、重複する要素も形態素とは限らず、語基の一音節目が曖昧母音に代

わって重複する場合もある。

語基の第一音節の繰り返し　　le-laki「男」← laki「夫」

語基の第二音節以下の繰り返し　　pertama-tama「最初の」← pertama「第一の」

1.5　畳語が表す意味

ここでは、畳語になることで生じる意味の変化について考察する。はじめに、重複する要素を品詞別に考察することで、意味の変化を考える。Booij（2010）は、重複現象で起きる意味の変化について、品詞別に分類している。

・名詞　　複数化、配分詞（each/every の意）化

・動詞　　描写される動作の強化

・形容詞　　形容詞の程度を高める

また、Crystal（2010）は、完全畳語・部分畳語や品詞を特定せず、語が反復されることによって生じる意味の変化について以下の10の項目に分類している。

a）複数　　f）連続性

b）繰り返しの動作　　g）縮小

c）強意　　h）極小化

d）散らされた描写　　i）過去形

e）空間　　j）形容詞マーカー

Booji の分類との大きな違いは i）過去形と j）形容詞マーカーに分類される品詞を変化させる働きがあることだ。これは前述の定義の項目で Inkelas が品詞の派生について言及していることと一致する。以上のような性質を持つ畳語を対象に、各言語における畳語の研究や言語を類型的に比べる方法論をふまえ、畳語の重複形態やその意味を分析する。

2. 調査方法と各言語の概説

2.1　調査方法

調査の対象とする言語としては、畳語に関する文献や資料がすでにある言語を扱うこととし、できるだけそれが属する言語族、語派が異なる以下の５つの言語を選定した。また、各言語のタイプも記した。

1. 日本語　　日本語族日本語派　　膠着語
2. 英語　　インド・ヨーロッパ語族ゲルマン語派　　孤立語

3. フランス語　　インド・ヨーロッパ語族イタリック語派　　屈折語
4. インドネシア語　オーストロネシア語族西インドネシア語派　　膠着語
5. ツツバ語　　オーストロネシア語族オセアニア語派　　膠着語

これら５つの言語の畳語を文法書や文献から資料として抜き出し、その形態、意味について分類する。形態についての項目は、畳語の形に焦点を当てて５つの言語を比べてその特徴を調べる。また意味についての項目は、既出の先行研究を参考にし、畳語になることによって発生する意味をカテゴリー化した上で、それをもとに５つの言語を比較する。その際には言語によってその意味を持つか、そして持つとしたら全体の中の何例が当てはまるのかを具体的に見ていくことにより、畳語が持つ意味について分析する。以下、これらの調査の前段階として、本章であげた５つの言語についての概説を述べる。

2.2　日本語

本論文で日本語の畳語に関して資料の参考としたのは、大槻（2006）の資料の一部である。日本語における畳語の特徴として、形態面では、２モーラの語基を持つ４モーラの語が大部分であることがあげられる（大槻、2006）。また、繰り返された２つ目の語基の始めが濁音化され連濁が起こる場合がある。

意味分類では、畳語の品詞によってその表す意味が異なる。

田村（1991）によると名詞の畳語は、複数性と個別性を表すとされている。また、形容詞の畳語には、「粗々しい」、「華々しい」など、語尾に「～しい」などの接辞が付く語が存在する。そして、動詞が重複してできた畳語には、「飽き飽き」、「懲り懲り」など、動詞の連用形や終止形が重複してできる畳語が確認できた。

日本語の畳語は辞書に載っているものだけでも、500語を超える為、本論文では、比較的畳語がよくみられるサ行から始まる畳語111語を扱う。この資料を基に、以下のことが確認できた。なお、意味分類は分類できるもののみを分類した。

・形態：完全畳語　88語、部分畳語（連濁、接辞）　23語
・意味分類：程度拡張　77語、複数　16語、連続性　５語

形態の面では、完全畳語の数が圧倒的に多いということが分かった。これは、日本語の語彙が漢字表記できることと関連性があるかもしれない。連濁が起きている畳語については、本来は同じ漢字を重複させて出来た完全畳語だったと考えられるが、音声環境のために２番目の語基の始めの音節が濁音化したと考えられるだろう。部分畳語とした23語は、「さまざま（様々）」のように連濁がなされている場合と、「ずうずうしい（図々

しい)」のように「～しい」などの接辞がついている場合の２種類の場合に分けられた。なお、「そらぞらしい（空々しい)」のように、連濁が起きたうえで、接辞がついた語も見受けられた。

意味分類の面では、程度拡張の役割を持つ語が一番多かった。意味拡張の役割を持つこれらの語は、語基が名詞や動詞ではなく、「じょうじょう（畳畳)」や「せきせき（寂寂)」など、副詞的な意味を持つ語や形態素である場合が多く存在した。

次に多かった語は、複数の役割を持つ語である。「しまじま（島島)」、「せぜ（瀬瀬)」に見られるようにこれらの語は主に語基に名詞を用いていることが分かった。

2.3　英語

形態の見地から見ると、英語の畳語は子音交替・母音交替が頻繁に起こる。Okamura（1991）は、この２つに加えて、語の繰り返しを入れ、英語の畳語を３種類と説明している。その例は子音交替（hoity-toity「気取った」)・母音交替（dilly-dally「ぐずぐずする」)・語の繰り返し（hush-hush「内密にしておく」）である。なお、Okamura（1991）は、子音交替・母音交替が起きている畳語をどちらも部分畳語に分類しているため、本論文でもその基準に従う。

また、英語には自然の音や動物の鳴き声を示す畳語は多く、生産的であるが、機能自体は極めて少ない（Okamura, 1991)。Quirk *et al.*（1985）は、英語における畳語の意味機能について以下の４つに分類している。

１）音を模倣する

　例：tick-tock（時計の音)、bow-wow（犬の鳴き声）

２）交互に行われる動作を描写する

　例：seesaw（シーソー)、pingpong（卓球）

３）不安定さ、ナンセンス、不誠実、ためらいに言及することによってけなす

　例：hocus-pocus（だます)、wishy-washy（優柔不断の）

４）語義を強める

　例：teeny-weeny（小さい)、tip-top（頂上、絶頂）

本論文で英語の畳語に関して資料としたのは、Okamura（1991）が使用している87の畳語である。この資料から、英語の畳語については以下のことを確かめることができた。なお、意味分類は Quirk *et al.*の分類を参考とし、分類に当てはまりそうな項目のみの数字を示す。

・形態：完全畳語　34例、部分畳語　53例　（子音交替　31例、母音交替　22例）

・意味分類：音の模倣　14例、交互の動作　5例、物や人をけなす単語　32例、
語の意味を強める単語　4例、幼児語　5例、擬態語　3例

まず、形態についてみてみると、部分畳語の数が完全畳語を上回っていることが分かる。また、部分畳語の中でも子音交替の数のほうが若干ではあるが上回っていることが分かる。繰り返される要素は、単語（criss-cross や fifty-fifty など）の場合もあるが、多くは音や様子を描写している音素である。また、英語のオノマトペでは、語の全体重複が見られ、完全畳語になっていることが分かる。

意味分類については、Quirk *et al.*が分類した3）の「不安定さ、ナンセンス、不誠実、ためらいに言及することによって、けなす」という意味機能に分類された畳語が一番多かった。また Okamura（1991）は、英語のオノマトペには動物の鳴き声や自然の音を描写する語がとても多いと述べている。

2.4　フランス語

Morin（1972）によると、フランス語の畳語にはオノマトペ的意味と、より小さい概念や親愛の情を示す指小語（diminutive）的意味の2つの機能があるという。オノマトペの場合はある音や様子の反復を表すが、指小語の機能は固有名詞や幼児語、愛情表現など、多様な語で見られる。

これらの機能を持つフランス語の畳語は、打ち解けた場での会話で使われることが多く、学校などの改まった場での使用は好まれない。特に指小語は、それに取って代わる単語が存在するので、大きな文法機能を持つものではないと考えられるだろう。フランス語畳語の資料として集めた106の畳語については、Morin（1972）がそれらの畳語の使われ方を親密語（familiar）、口語（popular）、幼児語（baby-talk）などに分類している。資料を参考にし、フランス語の畳語について以下のことが確認できた。

・形態：完全畳語　74例、部分畳語　32例

・意味分類：親密語　47例、オノマトペ　18例、幼児語　16例、口語　5例

形態については、繰り返される要素が形態素の場合は少なく、特定の音節が繰り返される用例が多いことが分かる。これはオノマトペの例に限らず、名詞や形容詞の場合でも同様であると言える。また、形態の数としては、完全畳語の方が部分畳語よりも圧倒的に多いことが分かった。

意味の点からみると、フランス語の畳語には、親しい間柄で使われるという親密語が

多く見られる。この中には、concon、foufou、sosot（全て「ばかな」という意の形容詞）などの軽蔑の意が含まれている語が少なくない。また、loulou、mimi という愛情表現を表す単語もあるということがわかる。

2.5　インドネシア語

インドネシア語の畳語の用法は特に意味上では多岐にわたっており、多くの研究がなされてきている。インドネシア語の単語のつくりは、重複現象に限らずさまざまな造語過程を経ているものが多い。松岡（1990）は、インドネシア語の畳語は「昂ぶる気持ちや様相を端的に、具体的に表現したり、抽象概念を言語化したり、あるいは語調による表現効果を高めたりする」傾向が特に顕著であると述べている。インドネシア語には、外見上は畳語の形をしているが、その構成要素が独立して用いられない語基が重複する語（疑似重複語）と独立した語基が重複によって派生語を生む場合（機能重複語）がある。

以下に例を挙げる。

・疑似重複語

kupu-kupu「蝶」、tiba-tiba「突然」などに見られる。このような形式は多様な語に存在する。

・機能重複語

インドネシア語にも完全畳語と部分畳語が存在する。ただし畳語の形態を決定する、語基の音節数などの明確な決まりはない。

また、インドネシア語の畳語にも語基の母音や子音を交替するものがある。松岡（1990）はこれらの語を音韻変化重複と定義づけている。その中には、compang-camping「ボロボロの」など、いくつかの擬態語も確認できた。

インドネシア語の畳語の意味分類について、松岡（1990）は大きく 4 つに分けて考察している。

1）「多数概念」を導入する：「多種・多様性」、「反復」、「継続」、「相互・交互」など

2）「否定的側面」が含まれる：「類似・疑似」、「誇張」、「無目的性」など

3）「強意」作用がある：「強意」、「譲歩」など

4）「弱意」作用がある：「婉曲性」、「曖昧さ、傾向」など

本論文でインドネシア語における畳語の資料としたのは、75語である。この資料の中から以下のことが確認できた。なお、意味分類に関しては、上に記した松岡（1990）の分

類方法を参考に、以下の５つに分類を行った。

・形態：完全畳語　42語、部分畳語　24語、語基が重複形　９語

・意味分類：複数　16語、程度意味拡張　14語、類似　７語、多様性　５語、
無目的性　２語

形態の面で確認できたのは、部分畳語に比べ完全畳語が多用されているということである。部分畳語には以下のように、母音交替・子音交替が起きている語が多くあった。

・母音交替：６語　例 warna-warni「色々な色」、mondar-mandir「行ったり来たり」

・子音交替：11語　例 sayur-mayur「多種類な野菜」、lauk-pauk「様々なおかず」

意味分類では、murid-murid「学生たち」（< murid「学生」）のように名詞の語を重複させ複数を表す語が一番多かった。

また、程度意味拡張の意味を持つ語の中では pandai-pandai「とても賢い」（pandai「賢い」）のような程度拡張が８語、jalan-jalan「散歩する」（jalan「道、歩く」）のような意味拡張が６語という結果が出た。

2.6　ツツバ語

重複現象はオセアニアの言語では文法上大きな役割を果たす場合が多いが、ツツバ語においても重複により行為の継続や程度があらわされたり、異なる品詞の語が派生するなどの、機能観察される（内藤、2011）。インドネシア語と同様に、語基自体が重複形の語と、重複によって意味が派生した畳語がある。

・語基が重複形の語

これらの単語は語基そのものが重複形の形になっている。例は以下のような語である。

beabea「ヤシガニに餌をやる」、burabura「蚊に刺された箇所が腫れる」

・重複によって意味が変化する畳語

ツツバ語の畳語には、完全畳語と部分畳語の両方の形態が存在する。語全体を重複させる完全畳語の場合は１音節から２音節の語に生じ、３音節以上の語には生じないが、語の一部分重複である部分畳語の場合は、２音節以上の語におこる（内藤、2011）。

tan-tan「死者を悼む」（完全畳語）　← tan「泣く」

do-dovo「朽ち果てる」（部分畳語）　← dovo「朽ちる」

また、語が２音節以上の音節から構成されて一定の条件に当てはまるものは、母音が脱落して以下のような語の形をとる。なお、この条件とは語頭から２音節目の子音が流

音または鼻音になっているときである。これは、はじめは完全畳語であったものが、子音が音節主音性を持った影響で２音節目の母音が脱落したものと考えられている。これらの単語は形態の分類の際には部分畳語とした。

var-vari「小さくちぎる」　　← vari「小さい」

daŋ-daŋa「ひどく臭う」　　← daŋa「臭う」

意味分類の面からみると、名詞・形容詞・副詞は重複すると、規模や程度、範囲、数が甚だしいことを表す。動詞の重複の場合は、行為の回数や程度が甚だしいことを表したり、相互の動作や他動詞から自動詞に派生するものも存在する。畳語の意味機能として、内藤（2011）は以下の５つを挙げている。

１）複数をあらわす　　４）行為の反復を示す

２）項を減らす　　５）相互作用をあらわす

３）意味や程度を拡張する

本稿でツツバ語における畳語の資料としたのは、参考文献中の「資料 A. 本書で使用した主要な語彙」から抜き出した畳語49語である。この資料から以下のことを読み取ることができた。

・形態　　完全畳語　24語、部分畳語　16語、語基が重複形の語　９語

・意味分類　　意味程度拡張　18語、複数　12語、反復　９語、語基重複形　９語

相互作用　１語

形態の面では、完全畳語の数の方が多いということが分かる。前述の１音節から２音節の語が完全畳語になるという条件は資料中の完全畳語すべてに当てはまっていた。

意味分類の面では、意味や程度を拡張するものが18語と一番多かった。この中には、意味拡張としたものが９語、程度拡張としたものが９語含まれる。

3. 重複形態

ここでは、畳語の重複形態（完全畳語・部分畳語）に焦点を当て上で、概説を述べた５つの言語の畳語に共通して言うことができる特徴や規則について考察する。

3.1　完全畳語・部分畳語

取り上げた５つの言語には全て完全畳語が存在した。完全畳語と語基の長さ（語基の音節数）との関連性は、どの言語においても２～３音節で成り立つ語基が多く見受けられたことから、ある程度は関連性があると考えてよさそうである。しかし、インドネシ

ア語の畳語資料として挙げた単語の中には、paraturan-paraturan「規則（複数）」などに見られるような語基の音節数が多いものも存在する。このような例外もあることから、一概に完全畳語と語基の音節数との関連性があると言いきるのは難しい。

部分畳語に関しても５つの言語全てに存在することを確認できた。部分畳語に分類された単語の中でも、その重複現象の種類として以下の３つの分類が可能である。

１）音節の重複

cracra「汚い」　（＞ crasseux「汚い」）（フランス語）

te-tamu「客（複数）」　（＞ tamu「客」）（インドネシア語）

mau-mausi「とても上手に」　（＞ mausi「上手な」）（ツツバ語）

* te-tamu「客（複数）」は、語基の tamu「客」の ta が曖昧母音化して重複したもの。

２）母音交替

chit-chat「雑談」　（＞ chat「おしゃべりする」）（英語）

warna-warni「色々な色」　（＞ warna「色」）（インドネシア語）

３）子音交替（日本語の連濁も含む）

さむざむ　（＞「寒い」）（日本語）

silly-billy「ばか」　（＞ silly「ばかな」）（英語）

lauk-pauk「様々なおかず」　（＞ lauk「おかず」）（インドネシア語）

なお、音節の重複に関しては、日本語に見られない現象であったが、吉田（2009）が日本語の特定の音節が重複している部分畳語について「日本語にも非常に極限されてはいるが、部分畳音があり、第１音節をそのまま重ねたり連濁を伴うこともあった」と言及し、例となる次の語を挙げている。

たたずむ（ta-tazumu/佇む）←たつ（立つ）

とどまる（to-domaru/留まる、止まる）←とまる（留まる、止まる）

このことを踏まえると、５つ全ての言語において語基の特定の音節を繰り返す部分畳語が存在すると言えるだろう。表１は、部分畳語の３つの形態特徴に５つの言語が当てはまるか否かを記したものである。なお、表や図中では日本語を J、英語を E、フランス語を F、インドネシア語を I、ツツバ語を T と表し、それぞれの特徴を持つときには+、それらの特徴が見受けられなかった場合は－と表す。

表１　各言語における部分畳語の形態特徴

	J	E	F	I	T
音節の重複	＋	＋	＋	＋	＋
母音交替	－	＋	－	＋	－
子音交替	＋	＋	－	＋	－

3.2　完全畳語・部分畳語の割合

前述の通り、本論文で取り上げた５つの言語の畳語には、割合の差はあるが完全畳語・部分畳語の両方の形態特徴を持つことが確認できた。各言語における畳語形態の数を比較するために、言語ごとに資料から確認できた完全畳語・部分畳語の数を以下の表にまとめた。なお、語基が重複形であると思われる語は完全畳語や部分畳語に当てはまらない為、本節では扱わないこととする。

表２　各言語における畳語形態の数

	J	E	F	I	T
完全畳語	88	34	74	42	24
部分畳語	23	53	32	24	16

上の表から、英語以外の４つの言語の畳語は完全畳語の方が多いということが確認できる。英語の畳語において部分畳語の割合が多い理由は、母音交替・子音交替が著しく多く、それらの単語が部分畳語に分類されたということが言えるだろう。各言語に見る完全畳語と部分畳語の割合は以下の図のとおりである。

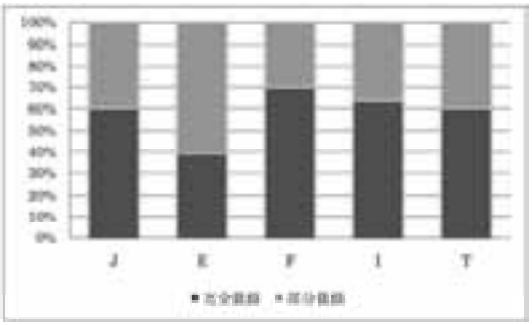

図１　各言語における畳語形態の割合

4. 意味分類

ここでは、畳語の意味分類に焦点を当てつつ、５つの言語の畳語の表わす意味の普遍性や意味間に見られる階層性について考察する。2.2〜2.6で述べた各言語の畳語が持つ意味と、Crystal(2010)が示す意味分類が一致したものをまとめると以下の項目が挙げられた。

表３　Crystal(2010)の畳語意味分類と各言語の畳語意味分類が一致した項目

日本語	複数、強意、連続性
英語	強意
フランス語	強意、連続性
インドネシア語	複数、強意、連続性
ツツバ語	複数、強意、連続性、繰り返し

また、Kajitani(2005)は、畳語の意味分類を多くの言語にわたって類型的に分析した論文において、畳語の意味分類を「増加（augmentation)」、「縮小（diminution)」、「強化（intensification)」、「弱化（attenuation)」の４つにわけて分析している。

ここからは、Crystal(2010)や、Kajitani(2005)が示した畳語の意味分類を参考にした上で、第２節において２言語以上の間で共通して見られた意味分類も項目に入れて考察する。本章で意味分類の項目としたのは以下の７つである。

1. 強意（intensity）
2. 連続性（continuity）
3. 複数（plurality）・多様性（diversity）
4. 相互の動作（reciprocity）
5. 動作の繰り返しや反復（iterativity）
6. 意味やニュアンスの変化（意味拡張や類似性を含む）
7. 弱化（attenuation）・縮小（diminution）

次の表は５つの言語の畳語において、上記７つの意味分類が当てはまるか否かを確認するためのものである。各項目でその特徴を持つものは＋、持たないものは－とする。なお、意味分類は頻度の高い順に並べた。

表４　各言語の畳語の意味分類

	J	E	F	I	T
1. 強意	＋	＋	＋	＋	＋
2. 連続性	＋	－	＋	＋	＋
3. 複数・多様性	＋	－	－	＋	＋
4. 相互の動作	－	＋	－	－	＋
5. 動作の繰り返しや反復	－	－	－	＋	＋
6. 意味やニュアンスの変化	－	＋	－	＋	＋
7. 弱化・縮小	－	－	－	＋	－

表４を考察すると、インドネシア語とツツバ語の畳語が多くの意味分類の項目に当てはまっていることが分かる。この２言語は、語派は異なるが重複現象が盛んなオーストロネシア語族に属しているので共通する点が多いと考えられる。一方で、英語とフランス語は、意味分類の項目に当てはまった項目が２つと少なかった。この２言語における畳語の役割は、上記の７つに分類したような生産的な意味を持つというよりは、前述の2.3　英語や、2.4　フランス語で述べたような口語的でくだけた表現を多く持つと考えて良さそうである。日本語に関しては、意味分類で当てはまった項目が上位３項目であった。しかし、今回の研究で日本語の畳語の資料としたのが限られた単語であったため、資料の範囲を広げれば、４位以降の項目と一致する単語も出てくる可能性があると考えられる。

6. おわりに

ここまでは、畳語の形態や畳語の意味分類を研究してきた。本稿で調査の対象とした５つの言語の畳語における形態･意味分類について､それぞれ以下のことが明らかになった。

◆形態について

・５つの言語すべてに、完全畳語と部分畳語の両方の形態が存在した。

・完全畳語と部分畳語では完全畳語の使用の方が、より多く見られた。部分畳語になる時の条件（語基の音節数など）が存在する言語もあったが、断言できる規則は見当たらなかった。

・部分畳語の形態特徴には、音節の重複、母音交替を伴う音節の重複、子音交替を伴う音節の重複の３つがあり、その階層は、以下のように表すことができる。

音節の重複＞子音交替を伴う音節の重複＞母音交替を伴う音節の重複

◆意味分類について

・畳語が持つ意味は多様なものがある。

・７つに分類した意味分類の中で、一番上の階層に来るのは「強意」であり、それ以降の階層も表すと以下のようになる。

強意　＞　連続性　＞　複数・多様性　＞　相互の動作＝動作の繰り返し・反復＝意味やニュアンスの変化　＞　弱化・縮小

・日本語、インドネシア語、ツツバ語は、畳語が表す意味の種類が比較的豊富である。それに対し、英語やフランス語は畳語の意味の種類が少ない。

「畳語とはどのようなものであるのか」をテーマに、形態と意味について研究してきた。上で述べてきた通り、畳語に関する規則は個々の言語には存在するが、その種類は多様であり、5つの言語の畳語に共通する特徴について特に断言できるものはない。しかし、その語が畳語かどうかは、語や要素を繰り返しているので、見たり聞いたりすれば認識できる。形態面からみた畳語の役割は、語や要素を重複させた形を提示することで、強意や連続性などの何らかの意味を付加するのではないかと考えられるだろう。この点で見ると、Inkelas（2006）が畳語について述べていた、形態と意味との結びつきである類像性（iconicity）が存在すると言える。

本稿では扱った言語の数と、また得られた資料が限られていたので結果は限定的なものとなったが、今後対象を広げ、より多くの資料を用いることで、畳語の性質、特異性、また、各言語の語形成の方法と畳語の生産性に相関関係があるのかなど、今後研究を深めることができればよいと考えている。

参考文献

大槻里美（2006）『日本語重複形の研究』東京女子大学言語文化学科　卒業論文

角岡賢一（2007）『日本語オノマトペ語彙における形態的・音韻的体系性について』くろしお出版

田村泰男（1991）「現代日本語における畳語について―数概念からみた畳語―」『広島大学留学生センター紀要 no. 1』pp. 41-47　広島大学留学生センター

田守育啓（2002）『オノマトペ擬音・擬態語をたのしむ』岩波書店

内藤真帆（2011）『ツツバ語　記述言語学的研究』京都大学学術出版会
松岡邦夫（1990）『インドネシア語文法研究』大学書林
吉田育馬（2009）「ラテン語の系統と構造―日本語との言語類型論的比較―」桜美林論集 36, pp. 51-70
Booij, Geert. (2010). *The Grammar of Words: an introduction to linguistic morphology*. UK: Oxford University Press.
Crystal, David. (2010). Sound symbolism. In *the Cambridge Encyclopedia of Language* (p. 183), UK: Cambridge University Press.
Inkelas, Sharon. (2006). Reduplication. In *Encyclopedia of Language & Linguistics, 2nd edition vol.10* (p. 417), NLD: Elsevier Science.
Kajitani, Motomi. (2005). Semantic Properties of Reduplication among the World's Languages. *ILO Working Papers in Linguistics, Volume 5,* pp. 93-106.
Morin, Yves Ch. (1972). The Phonology of Echo-words in French. *Language, vol.48, No1* (pp. 97-108). USA: Linguistic Society of America.
Okamura, Toru. (1991).Reduplication in English. *Eibeihyouron 5,* Osaka: Momoyama-gakuin University.
Quirk, Randolph *et al.* (1985). *A comprehensive grammar of the English language*. UK: Longman.
The World Atlas of Language Structures, Chapter 27: Reduplication, 〈http://wals.info/chapter/27〉 Retrieved 2012/12/2

Abstract

Reduplication is the repetition of all or part of a word and is one of the most basic word formation processes. Reproduction is not limited to onomatopoeia, and reduplicated words have many grammatical functions. They appear not only in Japanese but also in other languages.

The purpose of this article is to investigate the features of reduplicated words. In order to do this, I compared morphologically and semantically reduplicated words in Japanese, English, French, Indonesian and Tutuba, which all belong to different language groups. The results showed that there were two types of forms of reduplicated words: full reduplication and partial reduplication. Full reduplication is used more frequently than partial reduplication. With regard

to partial reduplication, three types were observed: (a) repetition of syllables; (b) ablaut (vowel change); and (c) consonant mutation. I also examined the meanings of the reduplicated words and classified them into seven semantic categories. I compared the meanings of reduplicated words across languages and suggest a frequency-based hierarchy of the meanings added through reduplication. In sum, while there is diversity of meanings added through reduplication, the most frequent meanings added are intensification of the original meaning of the word or expression, and repetition or continuity of an activity.